

1. 「とっとり子育て親育ちプログラム」の概要

このプログラムは「参加型の学習プログラム」です。

<ねらいは>

家庭教育は全ての教育の原点であり、基本的な生活習慣や豊かな情操、命の大切さや思いやりの心、社会生活を営むルールやマナーなど、子どもの人格形成に大きな役割を担っています。

本プログラムは、小学生や中学生の子どもを持つ親の集まり等で、子育ての悩みや課題を題材に、ワークショップや話し合いなどの楽しい時間を共有することで、親同士のつながりを深め、家庭教育について学びあう仲間づくりを進めるものです。参加者が学習の中心となり、自らの知識や体験を互いに伝え合うことで、気づき合い・学び合いにつなげていくことができます。

このプログラムで行われる個人やグループワークには、正解があるわけでもなく、無理に解答を導き出すものでもありません。プログラムをとおして、それぞれが子育てを振り返ったり、家庭教育について考えたりするきっかけとすることがねらいです。

<プログラムの構成と流れ>

導入

アイスブレイク (10分)
(雰囲気をもたせる)

- ・簡単なゲームなどで、初対面の緊張をほぐし、気軽に思いや考えが話せる雰囲気を作ります。
- ・グループ作りを兼ねることもあります。



展開

ワーク (40分)
(主たる活動)

- ・身近なテーマについて、自分の思いをシートに記入し、グループで意見交換を行う参加型の学習です。
- ・小グループで家庭教育の悩みや情報を共有しながら、楽しく話し合いを進めます。



まとめ

ふりかえり (10分)

- ・学習で気づいたことを個人やグループで振り返ります。他の人の感想を聴くことにより、自分の子どもとの関わり方をふりかえり、新たな気づきが生まれます。
- ・参加者同士の一体感も強くなり、ネットワークが生まれます。



<活用場面は>

こんな場でプログラムを使ってください。



入学前説明会



PTA 研修会
学級・学年の懇談会

とっとり子育て親育ち プログラム（思春期版）



企業内研修



地域・公民館等

<プログラムを進行するのは>

プログラムを進行する人を**ファシリテータ（進行役）**と呼びます。アイスブレイクを通じて参加者の雰囲気を和ませ、主たる活動（個人およびグループワーク）では参加者の作業を見守り、活動をお手伝いし、ポイントを整理したりすることで、学習の目標を達成することをサポートします。

「とっとり子育て親育ちプログラム」は誰でも進行できるように、1「アイスブレイク」、2「ワーク」（①個人で考える ②グループで共有する ③全員で共有する）、3「ふりかえり」という流れを基本としたシンプルなプログラムにしています。わかりやすい「進行マニュアル」と「ワークシート」を掲載しており、県が認定したファシリテータだけでなく、PTA役員や学校の先生でも進行することが可能ですので、是非皆さんでご活用ください。

<このテキストの使い方は>

各プログラムは進行マニュアル（偶数ページ）とワークシート（奇数ページ）でできています。

進行マニュアルに載っているアイスブレイクは一例です。他のアイスブレイクに変更することも可能です。（参照：アイスブレイク編（P7～14））

ワークシートのみ参加者の人数分コピーして配布してください。ワークシートは終了後に回収する必要はありませんので、参加者に自由に使用してもらいましょう。

*ワークシートはホームページからダウンロードすることもできます。

とっとり子育て親育ちプログラム

進行マニュアルページ

1. よりよい関係

① お父さん（お母さん）にグチってみてね

<ねらい>

○子どもの抱えそうなトラブルに対して、子どもの心に寄り添う言葉かけを考える。

<準備物>

○主催者（学校等）：ワークシート、横造紙 1/2（またはA3用紙4枚）×グループ数、付せん
○参加者：筆記用具

時間 (60分)	主な活動	発言	留意点
10	1. 学習のねらい 子どもは、心身ともに成長しています。目に見える体の成長や変化はわかりやすいものですが、目に見えない心の成長や変化は、気づきにくいものです。乱暴な物言いや無口でイライラしているわが子に親は戸惑います。子どもの心に寄り添う言葉かけで安心できる関係が保てるよう考えてみましょう。その前に、心と体を少しリラックスさせましょう。		
5	2. アイスブレイク ・思い出し自己紹介 3. ルールとマナーの確認	中学時代に「好きだった歌手」や「熱中したこと」を加えて自己紹介をします。 ※アイスブレイク編P12参照	・同世代の思い出に共感し思春期の頃を振り返る。
5	4. 心配事を付せんに記入する。 (ワーク1)	ワーク2の例を参考にして、付せんに書き込みます。	・一枚の付せんに一項目ずつ記入する。
20	5. グループごとに発表する。 (ワーク2)	発表します。	・進行を見ながら声かけをします。
10	6. 発表を聞きながら、自分の経験を語り添う。 (ワーク3)	発表を聞きながら、自分の経験を語り添います。	・場面ごとにグループを指定して、子どもの心に寄り添う言葉かけを考える。
15	7. グループごとに発表する。 8. まとめ	7. グループでどのような意見が出ましたか。出た意見を発表しましょう。	
	思春期は自立のための親離れをする時期。無口になったり、反抗的になったりしても、ひとまず不安は胸の内にしまっておいて、子どもの何気ない言葉をしっかり聞きましょう。親との距離が生まれる時期だけに、家庭に「心の居場所」が必要になります。口出し・手出しを控え、子どもの様子を見守りましょう。ただし、子どもが間違った方向に進みそうな場合は軌道修正のアドバイスが必要です。		

進行のしかた、発言例を載せています。

16

ワークシートページ

お父さん（お母さん）にグチってみてね

心が揺れ動きやすいこの時期こそ、親子がいつでも語り合える関係があれば、子どもの抱えそうなトラブルも、早め、早めに乗り越えられます。子どもの心の成長や変化で不安に思う事や心配していることを出し合い、子どもの心に寄り添う言葉かけを考えてみましょう。



ワーク1 学習面・身体面・生活面・人間関係についての子どもの心配事を付せんに記入しましょう。

ワーク2 横造紙を学習面・身体面・生活面・人間関係の4つに区切り、子どもの心配事を記入した付せんに紹介しながら貼っていきましょう。

学習面（英語、教科担任制、定期テスト、順位等）
例：「○○先生に聞きづらい」って言う。
・成績は中ぐらいと思っていたのに・・・

身体面（成長、食事、無気力、いらだち等）
例：「やせたい」と小食になった。
・「ムカつく」が口ぐせ。

生活面（生活リズム、校則、部活動、塾等）
例：朝練をすると、授業中眠くなる。
・みんなが塾に行くのに・・・

人間関係（友達、先輩・後輩、教師、コーチ等）
例：「○○小学校の子はちょっとこわい」
・「あいつすつように言われ

参加者が事由に書き込めるようにしています。

ワーク3 最初の発表は、自分の経験を語り添うようにしてください。



《参考になった声のかけ方はありましたか？》
あればメモして持ち帰りましょう。

17

<資料の活用>

巻末に、「資料」ページがあります（P42～）。プログラムを進行する際、話し合いや学びを深めるために学習者に配布したり、まとめの参考として活用したりできる資料を掲載しています。それぞれの家庭で、保護者の方に考えていただきたい教育やしつけのヒントとして紹介するなどご活用ください。